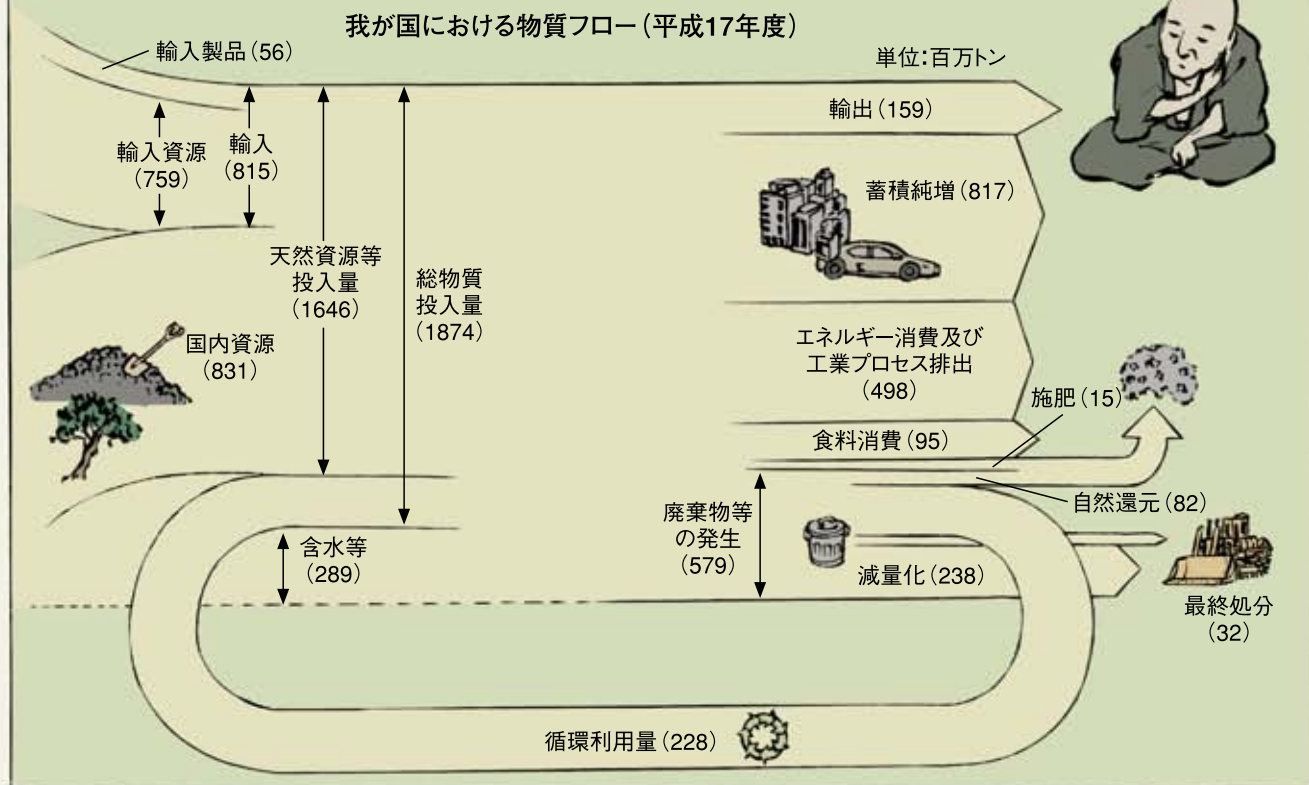


循環型社会の形成—ここを目指します—

循環型社会の形成には経済社会における
ものの流れ全体を把握する「物質フロー」の活用が有効である



「入口」 「循環」 「出口」

そして、日本では物質フローを「入口」、「循環」、「出口」の3つの断面に、それぞれの指標（資源生産性、循環利用率、最終処分量）に目標を設定しているんじゃないかな

また、3Rに関する国民や地方公共団体等の取組に関する指標である「取組指標」にも目標を設けてある



指標を有効に活用することで循環型社会の形成を客観的に把握し取組を加速させているわけじゃない！

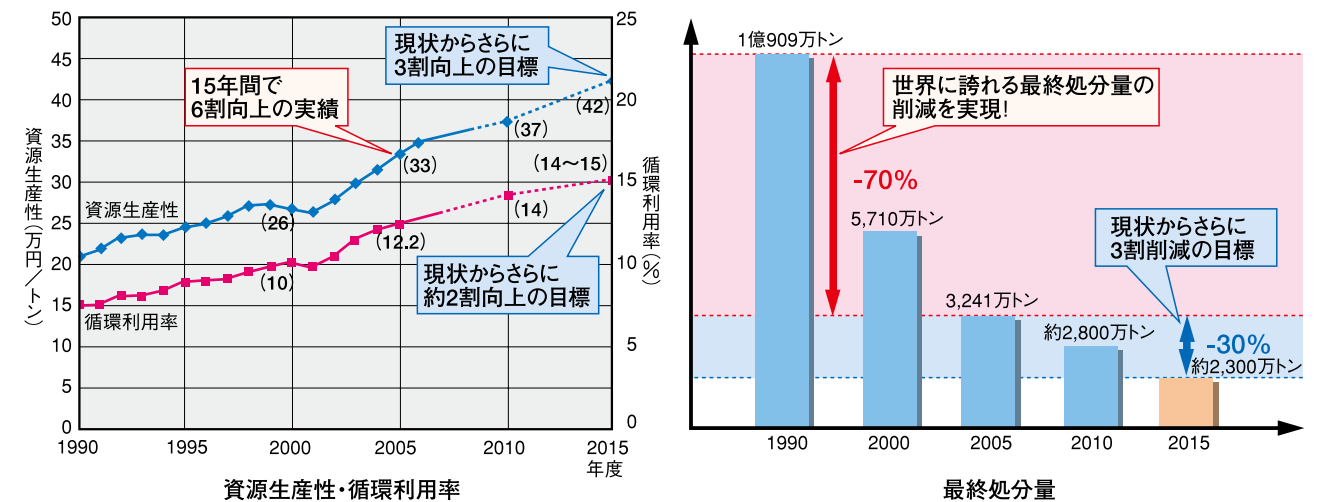
◆物質フロー指標

廃棄物の発生の原因を明確にし、発生の抑制や、循環利用を促すために、日本では下記の通り物質フロー指標に目標を設けています。

入口	資源生産性について、平成27年度（2015年）において約42万円/トンとすることを目標とする。平成12年度（2000年）から約6割の向上。
循環	循環利用率について、平成27年度（2015年）において約14～15%とすることを目標とする。平成12年度（2000年）から約4～5割の向上。
出口	最終処分量について、平成27年度（2015年）において約23百万トンとすることを目標とする。平成12年度（2000年）から約6割の減少。

これら3つに加え、「土石系資源投入量を除いた資源生産性」と「低炭素社会への取組との連携」を補助指標として、目標設定を行いました。

また、今後の施策展開の参考となる指標として、「化石系資源に関する資源生産性」、「バイオマス系資源投入率」、「隠れたフロー・TMR（関与物質総量）」、「国際循環資源を踏まえた指標」、「産業分野別の資源生産性」といった推移をモニターする指標を導入しました。



◆取組指標

取組指標では、関係主体による取組に関する下記の指標に目標を設けています。

- 一般・産業廃棄物の減量化
- 循環型社会に向けた意識・行動の変化
- 循環型社会ビジネスの促進
- 個別リサイクル法等の着実な施行

また、国民のリデュースに関する取組指標として、レジ袋辞退率（マイバッグ持参率）や使い捨て商品販売量（輸入割り箸）を測定し、地方公共団体のリデュースに関する取組指標として、ごみ処理有料化実施自治体率等、各主体による3Rに関する取組推移を定量的に把握し、情報提供及び今後の施策展開の参考ともなる指標として、推移をモニターする指標を設定しました。